

私の誕生日ごとに贈る子どもたちへの想い^{おも}

【テーマ④私にできる社会貢献】

日本健康医療専門学校

シオン・レイ・シュエ・イ〔ミャンマー〕

ミャンマーの人々にとって、自分の誕生日は単なる個人の祝福の場ではありません。多くのミャンマー人は、自分の誕生日に地域社会への貢献を行うことを大切にしています。具体的には、孤児院や高齢者施設などでボランティア活動を行います。また、寺院や慈善団体に物資やお金を寄付することもあります。この慣習には、自分の幸せに感謝し、それを他者に還元するという意味が込められています。自分の誕生日を祝福するだけでなく、地域社会への思いやりの心を示すのが、ミャンマーの人々の誕生日の過ごし方なのです。私もミャンマー人ですから、毎年誕生日には、ボランティア活動やチャリティー活動を行います。個人の喜びを地域に還元することで、お互いに支え合う社会づくりに寄与していると思います。

私は子どもたちが大好きです。そのため、私はよく孤児院や子ども支援センターでボランティア活動を私の誕生日にしています。そこには、親を亡くした子どもや、経済的な理由で親元を離れなければならない子どもたちが100人以上も収容されています。多くの子どもたちが貧困や紛争の影響を受けて孤独な境遇に置かれているのが現状です。

毎年訪れているので、私が行くと子どもたちはすぐさま、私のところに走ってきます。「誕生日おめでとう!」と喜びの声を上げ、私の手を握ったり、服の裾をつかんだりして、私の注目を引こうとします。それから、遊び場に連れていきます。まずは、子どもたちが好きなボ

ードゲームや積み木遊びをします。子どもたちは真剣な表情で遊びに集中しています。時々、私に質問をしてくれます。私は分かりやすく説明しながら、一緒に遊びます。

遊んでいると、別の子どもが私を引っ張ります。「次は遊んで!」と頼むのです。私はその子どもと新しい遊びを始めます。子どもたちは次々に新しい遊びを提案してくれます。

疲れますが、子どもたちの笑顔を見ると、遊び続けることができます。

やがて、給食の時間になります。子どもたちは喜んでおいしそうに食事を食べています。みんな平等なので、好き嫌いなんかできません。子どもたちの姿を見て、ちょっと悲しくなりました。でも、みんなの前なので笑顔で子どもたちの会話を聞きながら見守っています。

食事が終わると、みんな昼寝します。そのとき、私は子守歌で子どもたちを寝かせます。起きたら、みんなでまたゲームを始めます。縄跳びやかくれんぼなど体を動かすアクティビティーにも挑戦します。子どもたちは汗を流しながら楽しそうに遊びます。

衣服や文房具、おもちゃなどの物資支援も行っています。子どもたちの成長に合わせて必要なものを見極め、一年中少しずつお金を貯めて購入しています。子どもたちの笑顔を見られるのが何よりの喜びです。

こうして過ごす一日、子どもたちの純真さと活気に触れることができます。すてきな誕生日でした。

来年も行くのが楽しみです。今、私は日本に留学しているので、現地に行くことはできません。でも、せめてアルバイトの給料の一部を寄付して、子どもたちの生活を少しでも支えてあげたいと思っています。

ミャンマーでは現在、国内で戦争が続いています。そのため、多くの子どもたちが両親を亡くし、孤児となっています。私が毎年行って

いる孤児院でも子どもたちが増えています。食べ物や生活用品、遊び道具など必要なものが足りていません。

そこで、私は次の誕生日にはもっと多くのお金を送りたいと考えています。戦争から逃れ、安心して過ごせる居場所を子どもたちに提供することが、私にできる支援だと思います。

子どもたちの笑顔を思うと、私の心も温かくなります。彼らの未来を守るためにできることをしっかりと続けていきたいです。私の小さな支援が、子どもたちの人生を少しずつ変えていってくれたらと願っています。

